

海外シティギャラリー調査

コンテンツ

- シンガポール
- クアラルンプール
- パリ
- ロンドン

シンガポール

シンガポール・シティ・ギャラリー：見取り図

- 開場時間：午前9時～午後5時（月～土、日曜・祭日は休業）
- 年間来場者数約200,000人（約700人/日）
- 無料

3. Conversations

4. Learning the Fundamentals

5. Planning Sustainably

6. Brush with History

7. Urban Design

8. Study Area

9. Distinctive districts

10. Central area model

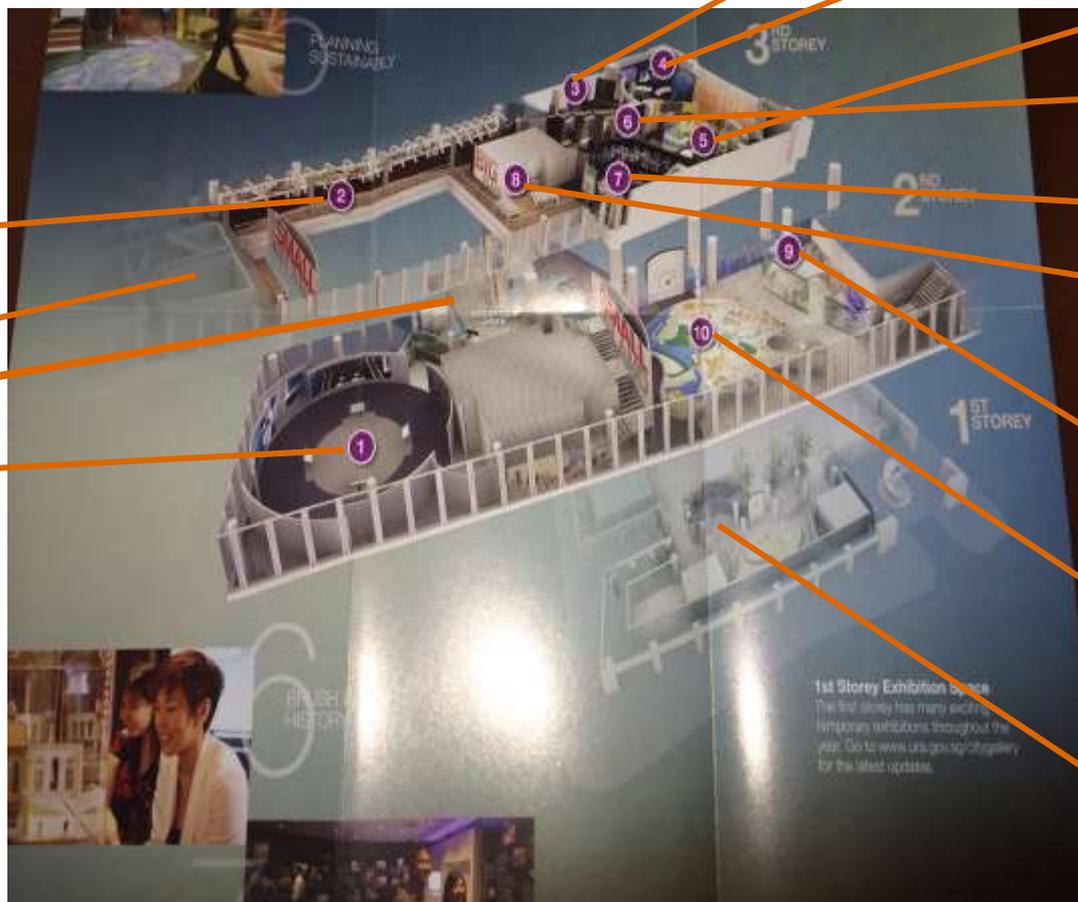
企画展示スペース

2. Periods of Progress

セミナールーム

模型製作室

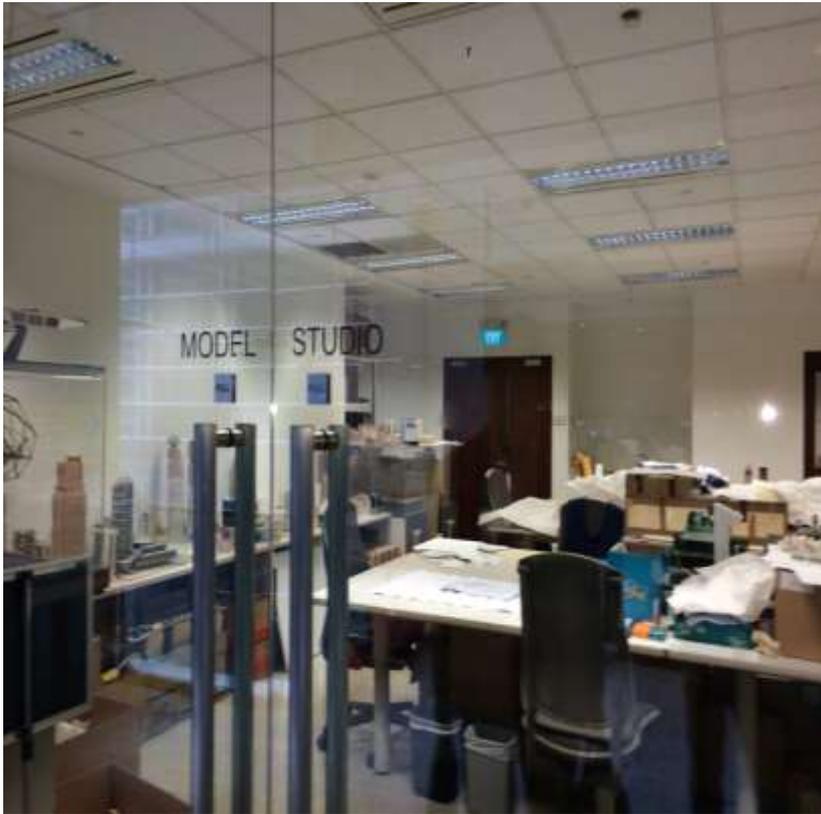
1. Vibrant Cities



エントランス / 1. *Vibrant Cities*

エントランス横

模型製作室



エントランス

Vibrant Cities

シンガポールの一日の表情をプロジェクションマッピングで紹介
世界の都市との面積、人口密度等の比較をタッチパネルで紹介



1. Vibrant Cities

シンガポール的一天についてプロジェクションマッピングで紹介
タッチパネルではシンガポールと他都市の比較ができる
(面積、人口密度、都市計画を考慮する上での制約事項等)



タッチパネルで都市課題について説明。

2. Periods of Progress

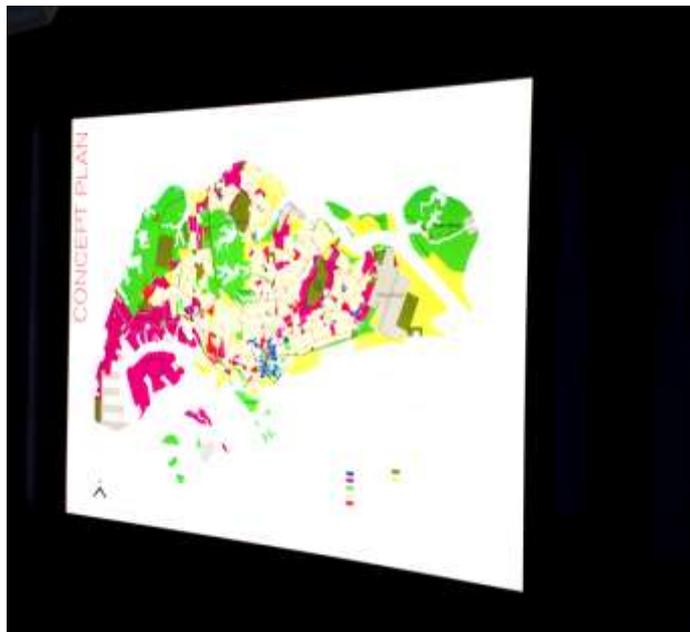
空中渡り廊下スペースを活用して、シンガポールの歴史を展示。



渡り廊下の右からは最後の展示であるジオラマを眺めることができる。

3. Conversations

シンガポールの都市計画についてPlanning, Realizationなどのテーマごとに、サイネージに表れる様々な人が語る。



4. Learning the fundamentals

シムシティのようなゲームを多人数でプレイすることで都市計画を学ぶ。



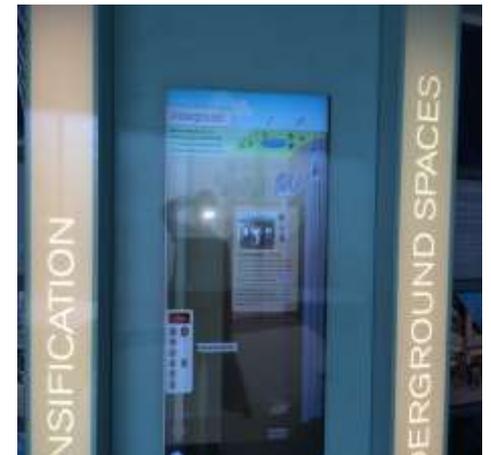
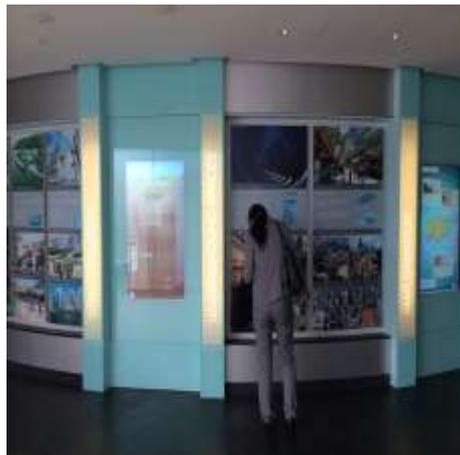
5.Planning sustainability

シンガポールの地理的制約を克服するための都市開発手法
(Intensification, Amalgamation, Dual usage, Co Location)をタッチパネル、展示で紹介。

タッチパネルの
展開例



展示例



地図上に住宅エリア、商業エリア、交通網等の情報をレイヤ表示（操作者が選択）

6.Brush with History

シンガポールの歴史的建造物がどのように保全され、
またどう街並みが変わったかについてタッチパネル、展示で紹介



タッチすると、古い風景から
今の風景が浮かび上がる

7. Urban Design

シンガポールの特徴的な建物、風景、インフラ技術（廃棄物処理、水処理等）を紹介



床面に航空写真の展示

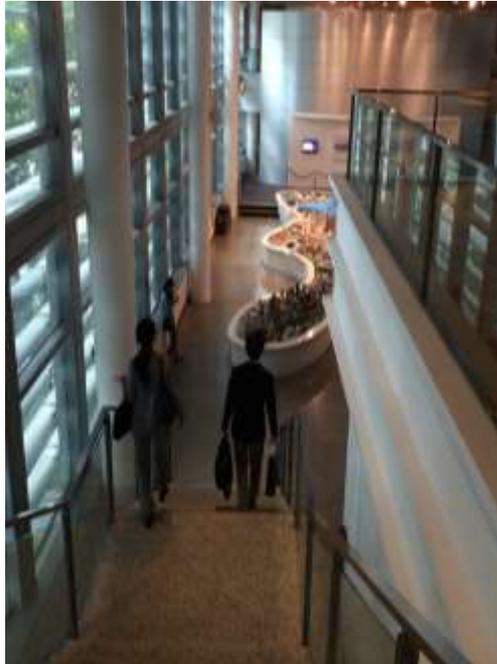
8. Study Area

シンガポール地図および古い写真を展示



9. Distinctive Districts

シンガポールの特定地区について映像上映



3Fから2Fへの階段



シアター形式の映像上映
Singapore River,
Marina Bay,
Orchard Road
Bras Basah Bugis

10. Central Area Model

ジオラマとタッチパネル式の説明画面



ジオラマはすべてが色塗りされているわけではない。



(参考) 出口

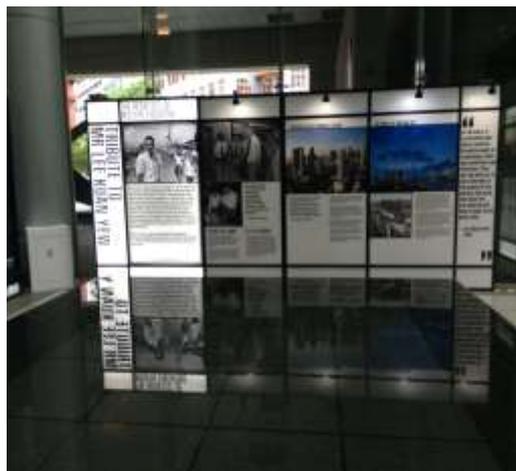
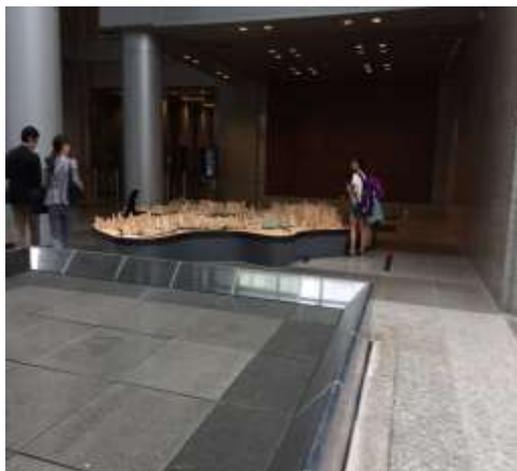


出口のThank you plate

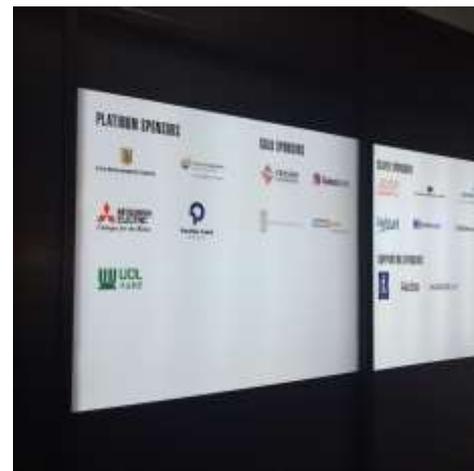
出口の観光案内パンフレット

(参考) 企画展示スペース

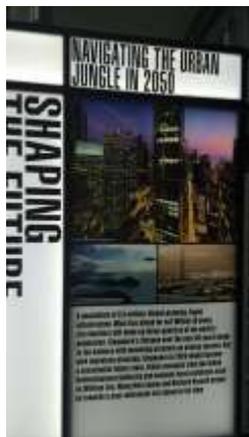
1Fの企画展示スペース



スポンサー一覧



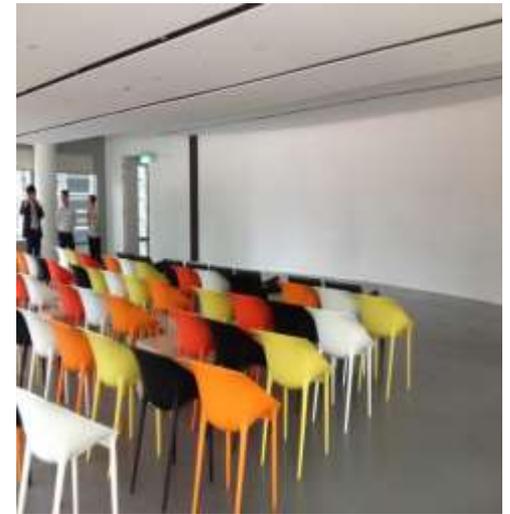
主催者一覧



(参考) セミナースペース



各階の構成
(4F、5Fにも関係施設がある模様)



セミナースペース (2F)

ギャラリー担当者からのヒアリング結果

Mr. Colin Lauw, Manager and Curator of Singapore City Gallery

□ 運営に関する内容

- 会場の広さは、1600平米。これにfunction room(200平米)、temporary exhibit space (600平米) が加わったものが全体の大きさとなる
- 展示物を作るための初期費用は、平米あたり3,500~4,000シンガポールドル(約28.1万円~32.1万円)であった
- 2011年に展示内容を全面改装。費用は総額で約430万シンガポールドル(約3.5億円)であった。これにはジオラマの改修コストは含まれていない。(ジオラマ改修は別途in-houseのチームを持っており、またビルオーナーや不動産事業者から寄付をもらって変更している)
- 展示内容の全面改装は、政府の土地利用マスタープランの変更にあわせて5-7年のスパンで実施している。
- ギャラリーは5名の常勤スタッフ、1名の非常勤スタッフ(テクニカルサポート)で運営されている。ビルメンテナンスや清掃等はURAでまかなわれている。年間運営費は約180万シンガポールドル(約1.5億円)

□ 訪問客に関する内容

A) インバウンド

- インバウンド顧客はシティギャラリーだけでなく、個別のプロジェクトに関連するもう少し細かい要素を重視するため、シティギャラリーと個別の企業との連携が重要である
- 投資決定後に、都市の全体像を理解する上でシティギャラリーは役に立っている
- インバウンドについては海外の企業や投資家のほか、以下のグループが多く訪問している
 - Education hub : 学生や若者で都市を勉強している人がシンガポールを訪れた際に訪問する
 - Singapore tourism boardの紹介 : MICE客にシンガポールの雰囲気味わってもらうために利用する
 - シンガポール内のinternational community
 - 海外の技術者(看護師など)

B) アウトバウンド

- アウトバウンドにも効果的であり、地元の企業・コンサルタントの紹介により、中国・インド等から多くの訪問客が訪れている。

クアラルンプール

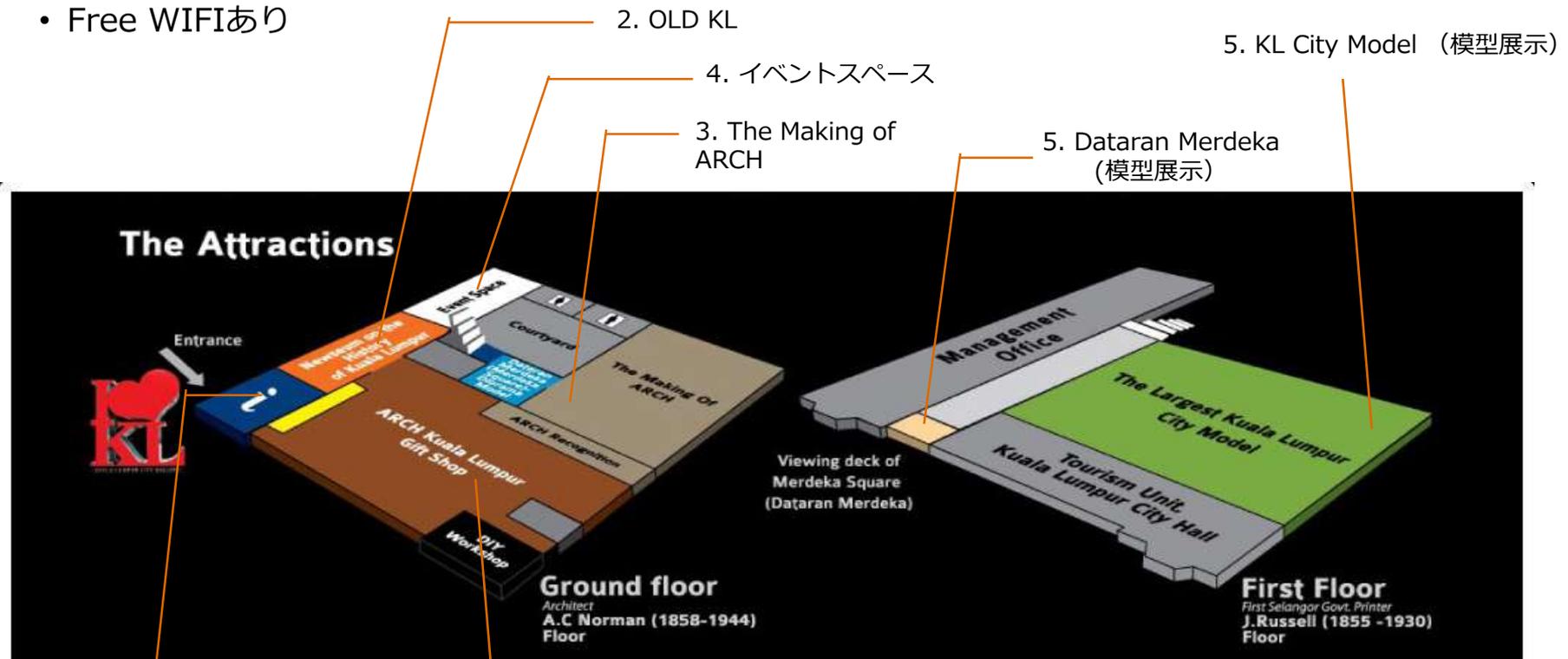
クアラルンプール・シティ・ギャラリー：外観

ギャラリー建物の外観。KL像で、写真を撮る観光客が多い。



クアラルンプール・シティ・ギャラリー：見取り図

- 開場時間：午前9時～午後6時30分（365日開場）
- 年間来場者数約900,000人（約2500人/日）
- 入場料：Spectacular City Model Showは5リンギット（約150円）。ただしお土産に換金可能
- Free WIFIあり



1. エントランス / インフォメーションセンター

3. ギフトショップ

1. エントランス/インフォメーションフロア

エントランスはインフォメーションセンターとなっており、クアラルンプールの観光地の情報の取得やチケットの購入が可能。



2. Old KL

クアラルンプールの歴史を展示。



Presentation Title

3. Making of ARCH / ギフトショップ

ギフトショップには、ARCHのウッドクラフトの作成を体験できるスペースがある。



4. イベントスペース

イベントスペースでは、季節の催しものや、文化的な展示を行っている。



新年をテーマにした展示



5. クアラルンプール City Model

40ft (約12m) x 50ft (約15m) 規模のクアラルンプールの模型



世界遺産であるDataran Merdekaの模型

その他：カフェ

マレーシア料理が楽しめるカフェが併設



ギャラリー担当者からのヒアリング結果

□ 基礎情報

- **規模**：2階建て、面積は約2,800㎡
- **建物のオーナー**：KL市が現在も一貫して所有し、以前は印刷会社、さらにその前は郵便局が使用
- **初期費用、運営費**：ARCHが負担。
 - 初期費用：約600万マレーシアリングット(約1億6500万円)
 - 運営費（模型の更新、展示、リース、メンテナンス、人件費等）： 約60万マレーシアリングット（1600万円） / 月
- **来客数**：時期により異なるが、ほとんどが外国人。開業2年程度は約90%程度が外国人観光客であったとのこと。
- **スタッフ数**：シティギャラリーに100人程度（うち企画部門は20名程度）、模型製作工場に100人程度

□ ギャラリーの目的

- 10年ほど活用されていなかった建物の利用方法とその目的・ビジネスを、当時の市長にプレゼン。外国人観光客にワンストップでクアラルンプールの歴史や文化、都市の成り立ち・未来を伝える拠点として整備した。今後は、子供や学生を含めた国民にクアラルンプールを知ってもらいたい。

□ 運営について

- **ギャラリーの運営・イベントスペースの企画**：ARCH
- **収入源**：政府からの補助金はなく、入場料、ギフトショップの売上が主。
- **展示以外の施設・取組み**：イベントスペースの企画以外に、観光案内、ギフトショップ。カフェ、模型作り体験も行っている。
- **民間企業との連携**：民間デベロッパーから都市開発のデザイン等を依頼され、それを基に模型を作成、展示。民間デベロッパーも自らの開発計画が反映されることを望むため積極的。
- **教育機関、その他組織との連携**：展示やプロモーションについて、多くの機関や組織と連携（DASEIN Academy of Art, USCI Academy, The One Academy, Sunway University, Malaysian Institute of Architects, Japan Foundation, Malaysia Philatelic Society, Textile Museum, Equador Embassy、 KL City Hall、アーティスト、写真家、出版社、等）
- **他ギャラリーとの連携**：特になし（ただし、今後インドネシアなどの都市に進出できればネットワーク化したいし、日本のシティギャラリーができればぜひ連携したい）。

□ 展示手法

- **デジタルの活用**：模型にプロジェクション・マッピングを用いて将来の開発等を表示
- **多言語対応**：3カ国語（英語、マレーシア語、中国語）
- **来場者数維持の工夫**：Made in Malaysiaを基本としつつ、常に変化すること（模型は月1ペースで更新）。また、来客数の少ないセクションについては改善を行う。実際に、Dataran Merdekaの模型展示をすることで集客に貢献。

パリ

アルセナル・パビリオン：外観/エントランス

- 開場時間：午前10時30分～午後18時30分（月～土）
午前11時00分～午前19時00分（日曜）
※1月1日以外は休日も開館
- 年間来場者数約200,000人（約550人/日）
- 入場料：無料



1階が常設展で、2、3階が企画展



入口脇の物販コーナー

1. 常設展 (1/2)

大型ディスプレイでのプロジェクト表示

- グーグルと協力し、大規模なディスプレイ画面（約40 m²）でグーグルアースに進行中・計画中のプロジェクトを落としたものを表示。
- グーグルアースの展示はシンガポール、ニューヨーク、北京等を参考にし、簡単にupdateできるようにデジタルの表示を選択。東京を含め、世界中が表示可能。
- グーグル社との提携は資金面ではなく、展示の立ち上げ、設備メンテナンス等技術者を派遣しての参加。（グーグル社には就業時間の20%を企業と社会をイノベーションするために使ってよい「20%ルール」があり、その枠で参加している。

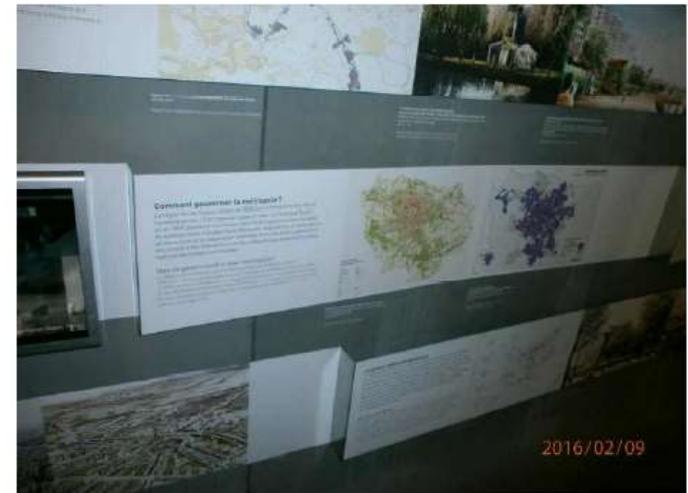


1. 常設展 (2/2)

模型によるジオラマ展示



壁面展示：中世以降の都市計画、都市整備と今後のまちづくりの方針



2. 企画展

- 年10回数回程度実施している。
- 現在は「パリの再発明」というテーマで提案を募集した際の優秀作品の展示を行っている。



ギャラリー担当者からのヒアリング結果 (1/2)

Alexandre Labasse, Architecte dplg, Directeur General (館長)

□ 基礎情報

- **規模** : 3階建て、面積は約4,000㎡
- **建物** : パリ市から借用
- **入場無料**
- **来場者** : 年間約20万人で、大半がフランス人。若年層と高齢者層が多く、中間層が少ない。都市計画・建築関係以外の一般来場者が7割。7000人は小学生の授業での来訪。
- **その他** : 知的財産権保護として、館名と常設展示施設、ネット用アプリを登録商標している。

□ ギャラリーの目的

- 1998年、ヨーロッパで初めて（ラバス氏によれば、おそらく世界でも初めてとのこと）の建設関連の展示センターとして開設。
- 当時のシラク・パリ市長がパリ市の新しい開発方針（これまで遅れていた北東部地域への開発・再生を重点化し、地域バランスを確保する）等、将来のまちづくりを市民に説明することを狙いとして開設された。

□ 運営について

• ギャラリーの運営 :

- パビリオンナショナルアソシエーション。運営の責任者及び館長は建築家でもあるラバス氏。スタッフ17名であり、このほか外部の建築家と契約している。また建築学校と連携しており、週末等は学生が来訪者に展示を説明している。
- 館長はパリ市長から任命されているが、パリ市職員の身分ではない。
- 理事会は、パリ市、SEMAPA（パリ市都市開発公社）、学会（建築学校代表者）、建築家、グランパリのプロジェクト代表者、イルド・フランスのディベロッパー協会、地下鉄公社、ポンピドーセンターの代表者等で構成されている。

ギャラリー担当者からのヒアリング結果 (2/2)

Alexandre Labasse, Architecte dplg, Directeur General (館長)

□ 運営のついて(続き)

収入源：

- 運営資金はパリ市、SEMAPA等の公社、民間業者（北東部開発に関連するディベロッパー、不動産会社、建設会社）等から拠出されている。
- パリ市、SEMAPAからの支援は設置当初よりほぼ一定で、民間からの支援はメセナ扱いであり、減少傾向にある。（250万ユーロ/年の予算で、うちパリ市、SEMATA等から150万ユーロ/年、民間から100万ユーロ/年。）
- 民間からの支援については、できるだけ多くの会社から少額ずつもらう（40社以上から拠出）こととしている。特に建築や都市開発と関係のない会社からは個別の展示プロジェクトに対して支出してもらったり、クラウドファンディングを実施する場合もある。現在、市庁舎前広場で行っている建築資材再利用の重要性を訴えるイベントでは、企業から12万ユーロの出資を得た。このような取組の結果、2014年の民間からの拠出金の予算は50万ユーロ/年であったが、実際には100万ユーロ/年の拠出金を集めることができた。
- その他、書籍等の出版・販売でも収益をあげている。

展示以外の施設・取組み：

- 講演会・ワークショップ等（年50回程度）、関連する本の出版、ビデオの制作（年10本程度）、館外イベント実施
- 先方からの招へいにより、国内他都市や外国でもカトマンズ（ネパール）、シンガポール等でも巡回展を行っている。ジオラマ以外は所蔵品がなく、CD等で資料のコピーデータを送れば展示が可能であり、海外でも低コストで展示ができる。
- 公社、民間のプロジェクト等への助言を行っており、これは広報とともに協会の業務の大きな柱の一つ。

他の団体との連携：

- 建築関係が中心（学校・建築家の協会等）で連携している。
- シンガポール等他のギャラリーと連携というわけではないが、常に連絡はとれる。
- 日本では、RAD(Research for Architectural Domain)と交流がある。

ロンドン

クリスタル：アクセス

ロープウェイによるアクセスあり（Emiratesが運営）



passes and inf



Enjoy your flight – look out for these iconic London landmarks and many more.

Journey advice
For your safety and enjoyment, please be aware:

- Cabins and terminals have CCTV, which is monitored at all times.
- Staff are present at the terminal to provide information and assistance. In each cabin there is a call point which contacts a member of staff.
- Children under the age of 12 must be accompanied by an adult at all times. A group of children 15 and under will also need to be accompanied by an adult.
- Open alcohol containers are not permitted on the Emirates Air Line.
- Cyclists are asked to be considerate to other passengers when moving their bikes through the terminals. Please use the lifts provided to get to and from the cabins.
- The Emirates Air Line terminals and cabins are all non-smoking.
- With the exception of guide dogs, animals must be carried at all times. Some animals may not be permitted. Please check with a member of staff before travel.
- Groups may have to share with other passengers, unless a Private Cabin has been purchased.
- All passengers must remain seated at all times throughout their journey.

Dynamic Stadium and Residential Craft Town
See famous buildings such as the BT Tower, St Paul's Cathedral, the Gherkin, Canary Wharf and the London Eye.

Home Tower
Watch the planes arriving and departing from London City Airport, and in the distance see the Queen Elizabeth II Bridge.

West End Culture
Look towards Greenwich to see Transported Houses and the Royal Observatory.

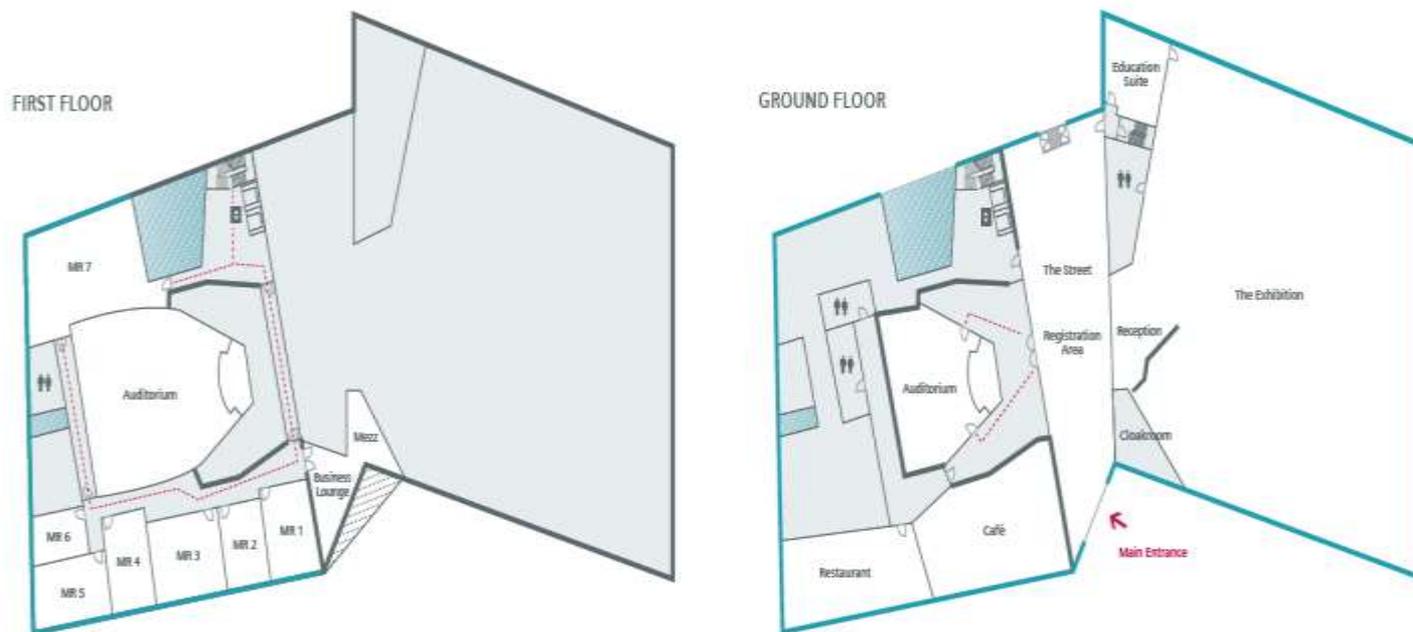
The Shard
If you look closely you can even see the Shard at the distance.

We hope you enjoy the views!

A photograph of a self-service kiosk for Emirates Air Line. The screen displays "Enjoy your flight!" and various options. Below the screen are instructions: "1 Touch screen and choose Boarding Pass" and "2 Collect Boarding Pass, change, receipt". A "Tickets" sign is visible at the bottom.

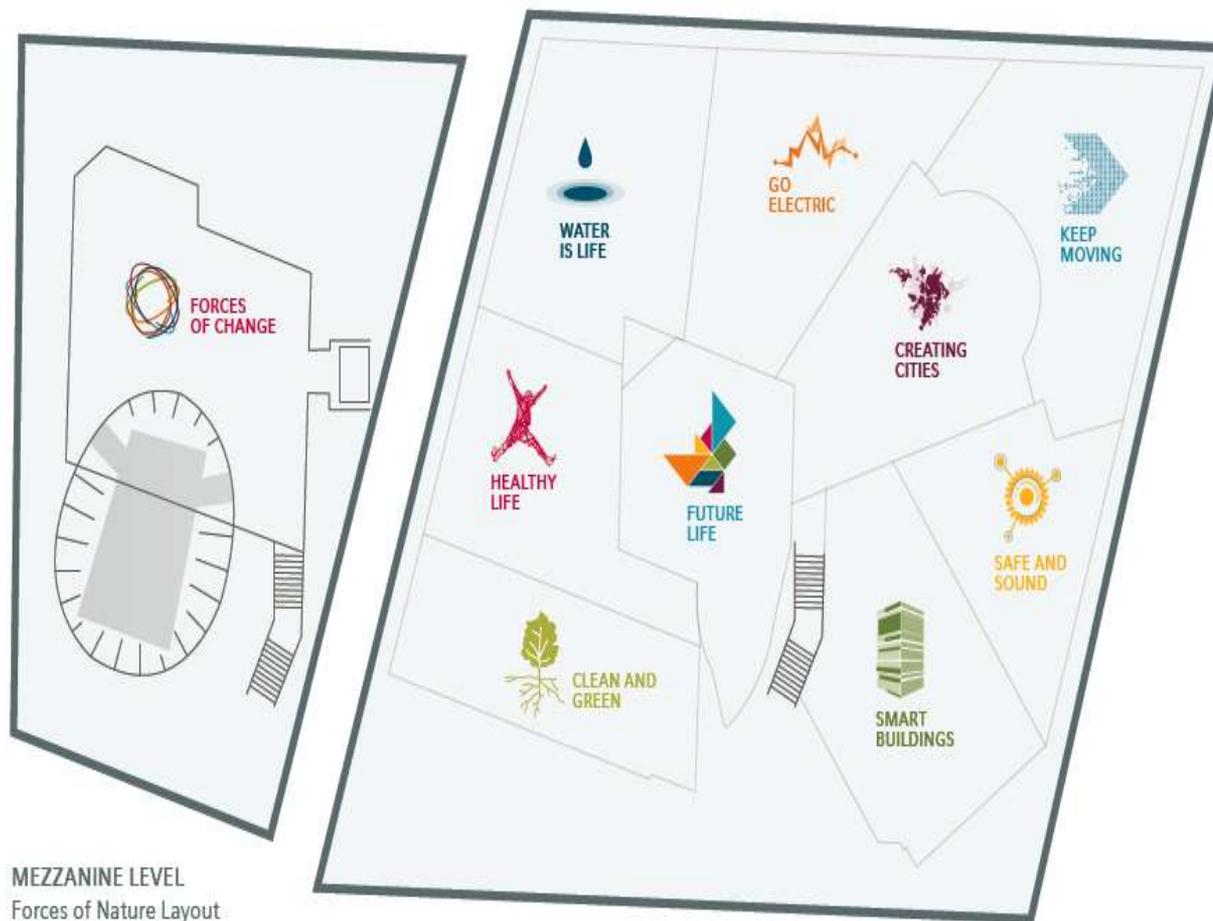
クリスタル：全体の見取り図

- 開場時間：午前10時00分～午後17時00分（火～日）
- 年間来場者数：100,000人（最初の1年間）
- 入場料：一般（8ポンド：約1300円）、60歳以上と障がい者（5ポンド：約800円）、
年間パス（25ポンド：約4000円）、18歳以下、学生、ニューアム区民（無料）
- 展示のほか、オーディトリウム（270席）、教育ルーム（クラスルーム形式で16–18名）、ミーティングルーム（7室、16名から3部屋連結で220名まで利用可能）、レストラン・カフェが併設。
- The Streetのスペースも展示で利用可能（270名まで収容可能）



クリスタル：展示構成

展示はGround Floorの約半分のスペース+メザニン。全部で10のテーマに分かれて展示

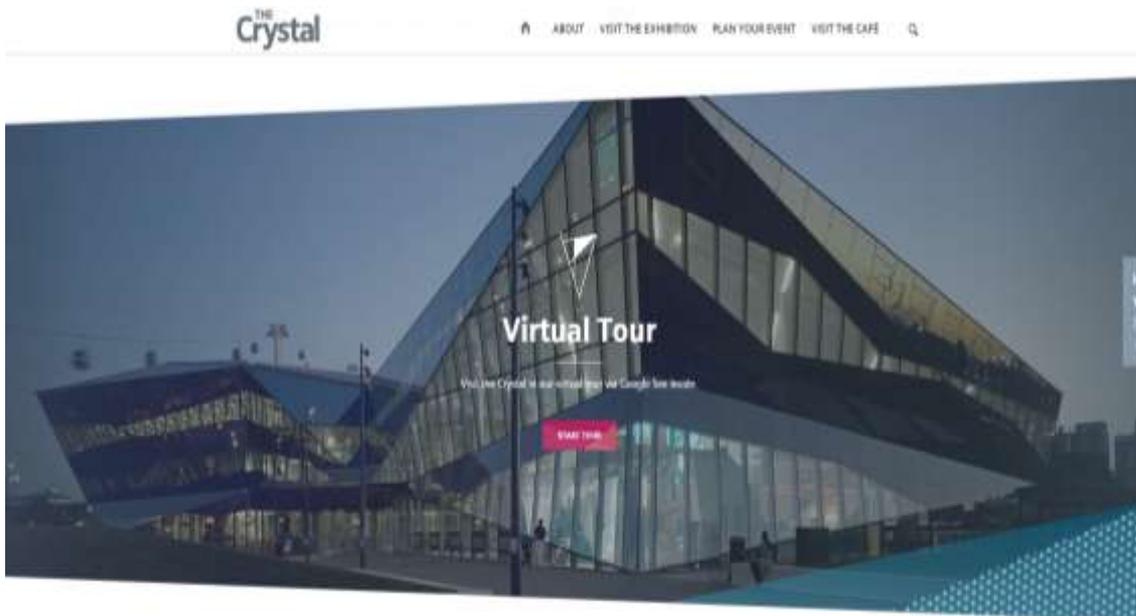


MEZZANINE LEVEL
Forces of Nature Layout

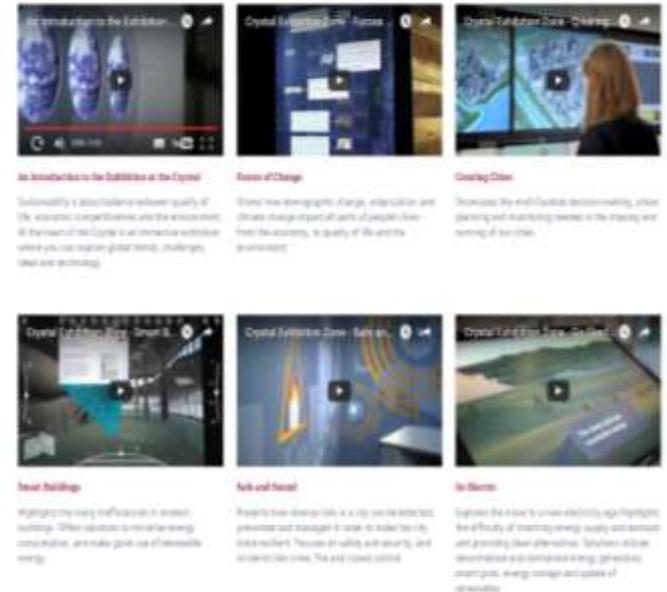
GROUND FLOOR
Exhibition: Our Urban Future Layout

クリスタル：バーチャルツアー

- HPから施設のバーチャルツアーを行うことができるようになっている（展示の外部のみ）
- 展示についてはテーマごとに紹介ビデオあり



Exhibition zone videos



クリスタル : *The Street*と展示入口



レストラン、カフェ、
オーディトリウム

The Street
(展示スペースにも活
用)

展示入口

クリスタル：テーマ別展示内容

1	Forces of Change	人口動態の変化、都市化、気候変動が経済、QOL、環境に与える影響を示す。
2	Creating Cities	都市を形作り、動かしていく上で必要となる、都市計画・モニタリングにおける多角的な意思決定過程を紹介する。
3	Smart Buildings	近代建造物の非効率性を明らかにし、エネルギー消費量を最小化し、再生可能エネルギー導入の手法を紹介する。
4	Safe and Sound	都市の多様なリスクを明らかにし、レジリエントな都市を構築するための安全・安心なソリューションを紹介する。
5	Go Electric	エネルギーの需要と供給をマッチングさせる難しさを明らかにし、スマートグリッド等のソリューションを紹介する。
6	Water is Life	水の飲用可能な水へのアクセスを提供するソリューションを紹介するとともに下水等の技術も紹介する。
7	Healthy Life	人口増加と高齢化が医療システムに与える影響を明らかにして、予防医療やライフスタイル変革の手法を紹介する。
8	Clean and Green	ごみ、公害、大気汚染が生活環境に与える影響を明らかにして、環境改善とCO2削減に資する技術を紹介する。
9	Keep Moving	効率的な交通インフラの必要性を明らかにして、グリーン交通、ITS等について紹介する。
10	Future Life	ロンドン、ニューヨーク、コペンハーゲンをベースに現実に即し、前向きで、実現可能なサステナブルシティのシナリオを提示する。

※展示はプロジェクションマッピングやタッチパネル、サイネージ、パネル展示を利用。実機も設置されている

※体験型展示が多く、それらは入館カードをかざすことで起動する模様

※テーマごとにスペースデザインを変えることで変化を生み出している。オブジェなども多用

1. Forces of Change



床から壁面に立ち上がるディスプレイ

特徴的なサイネージ
タッチパネル説明もある模様



2. Creating Cities

Green City Indexによる都市情報の提示



Play the City game



EVの展示

3. Smart Buildings

パネル展示



クリスタルの建物自体を活用したSmart Buildingの説明



Smart Buildingを作るゲーム

4. Safe and Sound

ゲームで行政のEmergency serviceを理解

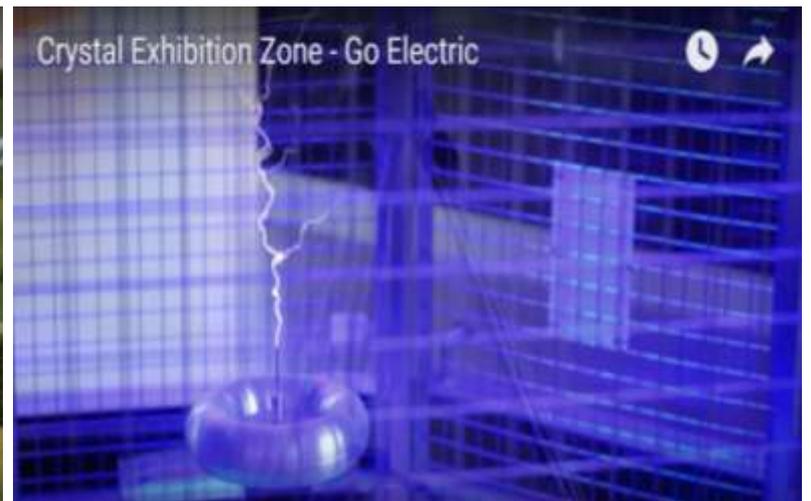
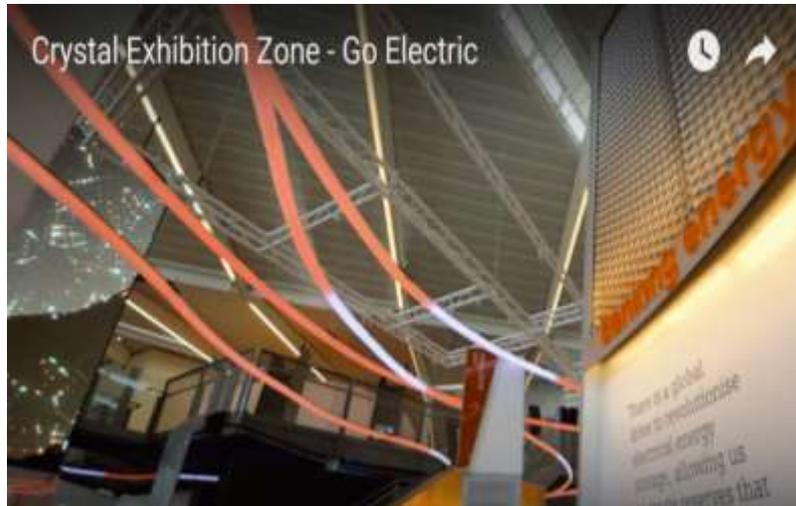


顔認証技術の紹介



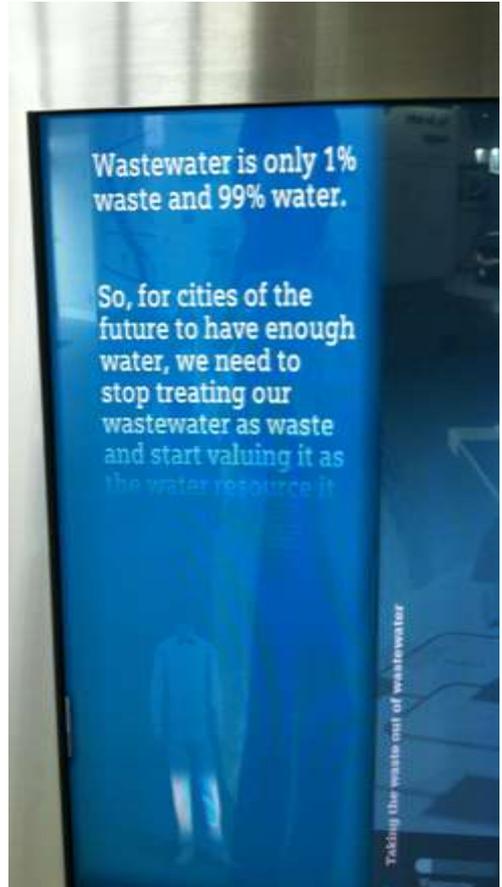
ICカード利用

5. Go Electric

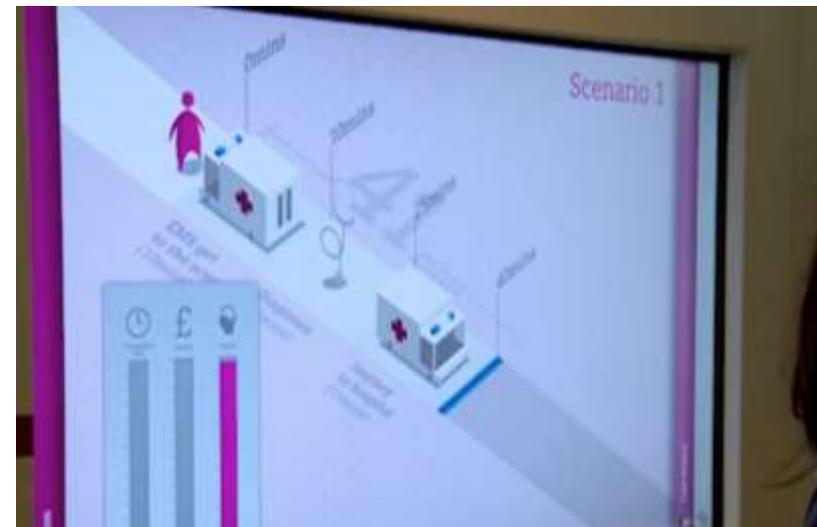


ビジターが自らの運動で、発電した電力を見せる

6. Water is Life



7. Healthy Life



8. Clean and Green



9. Keep Moving



クリスタルまでどのように来たかを書くことで、カーボンフットプリントの削減方法をアドバイス

10. Future Life

ニューヨーク、ロンドン、コペンハーゲンの将来の暮らしイメージをビデオで紹介

